## 【資料15】令和3年度 AIE国際高等学校 学校評価総括表

教育目標	高い問題意識と感性を有する若者を受けとめ、自国の文化・歴史に誇りを持ち、広く世界に関心の目を向	<b>題意識と感性を有する若者を受けとめ、自国の文化・歴史に誇りを持ち、広く世界に関心の目を向けて社会の問題に気づき、それを解決しようと努力する熱意と能力を持つ使命感溢れる国際人を育成する。(学則第1条)</b>					
目指す学校像	豊かな感性をもった若者が新しい自分を発見し、広く世界に貢献しようとする意欲と能力を開花さ	せる学校。					
	Learner Profile(目指す生徒像)	基本方針					
Knowledgeabl 広くバランス <i>0</i>	le-知性- のとれた学問領域について理解と知識を深めようとする人	①学び合う	教える者は学ぶ者。学ぶ者は教える者。この精神のもと、生徒と先生が一緒に校風を創ります。先生は師であるとともに、同じく人間として成長しようとする友です。				
Harmoniousー 自分の意見を Risk-Takerー	E持ちながら、他者の意見も尊重し、協力し合いながら効果的にものごとに取り組める人	②コミュニケーション能力 を育てる	コミュニケーションとは、"人と関わること"。相手の気持ち、メッセージを正しく受けとめ、また、自分の思いを分かりやすく表現し、対話を深めていく力を育てます。そのために、母国語を基盤とする"言葉の力"を大切にします。				
Balanced-/	実性に勇気をもって臨むことができる人、自分の信念を恐れずに明言し実践できる人 ドランスー ンスを重視し、肉体も人格の一部として大切にする人	③多面的にチャレンジする	色々な自分を発見するために、様々な分野にチャレンジします。スポーツ・音楽・絵画・ガーデニング・茶道・演劇・討論etc. 多彩な活動、イベトを通して新しい自分に出会います。				
Sensible一感		④国際的志向を高める	グローバルな時代にあって、広く世界に関心の目を向け、"国際社会の一員になろうとする気持ち"を育てます。母国語をしっかりと理解しなから、異なる国との関わりを学ぶ能力を高めるのが目標です。				
	)中でも、何らかの前向きな意味を見出す気質を持っている人	⑤悩む力・考える力・ 乗り越える力	"悩むべきことに悩む"のは能力です。その感性を大切にしながら、その問題から逃げずに考え続ける力、そして、それを乗り越えていく力を育ます。問題に気づき、解決していく、強くて柔軟な心の姿勢を育てます。				
Caring & Humble-他者配慮- 思いやりと謙虚さを持った人、他者の気持ちに共感し、慈悲の心を持つ人		⑥基礎から始める	嵐が来ても根がしっかりとした木は倒れません。何事においても、しっっりした基盤があってはじめて応用力を発揮することができます。特に学習面においては、基礎からていねいに学ぶことを大切にします。				
	生徒一人ひとりの「Learner Profile」育成を目指して、行事や計画的・継続的・系統的に実践が行われている。あらゆる教育格的な育成を目指す教育実践はAIE国際高校の特色であり、コロナ禍においても、リモートを適切に用い、海外の機関と共産のフィいる点は素晴らし、、3年ぶりに米国夏期短期留学も通	育の機会を通して、全人 評価できる。 や 英語で積極的に交流を 感	・人数クラス編成で一人ひとりに丁寧に対応されている。 ロナ感染による制限が徐々に解除される中で、対面による保護者間の情報共協力の機会も増えていくことを期待する。 ※染拡大対策を重点的に行っていること、また、コロナ感染者が出た際、ガイドラ				

前年度の課題と評価

コロナ禍においても、リモートを適切に用い、海外の機関と英語で積極的に交流を 図っている点は素晴らしい。3年ぶりに米国夏期短期留学も再開されることになり、ま すますの国際交流が図られることを期待する。創立10周年を迎え、卒業生も多岐にわ たり活躍する中、交流できる同窓会等があってもよいのではないか。

保護者有志「Familyの会」では、機会を色々と考え、様々な活動が実施できたことはよかった。オンラインが様々な分野で機能的に活用されている。コロナ禍の中であったが、オンライン学習システムの導入による英語の自主学習の促進や、遠方の保護者との学期末面談などの充実した取組みがなされていた。感染対策をしながら、英語劇発表会と卒業記念の和太鼓演奏会を含む全ての学校行事が実施できたことは評価できる。

感染拡大対策を重点的に行っていること、また、コロナ感染者が出た際、ガイドラインに沿って速やかに臨時休講措置を取るなどの対応がなされたことは学校の危機管理が整っていると判断できる。また、各コースの生徒を対象とした避難経路確認など、自然災害を想定した避難訓練にも継続的にとりくんでいただきたい。

約8万個のエコキャップを社会福祉協議会に提供した活動、海岸のゴミ回収活動を行ったことなど、地域貢献の取組みが行われている。

様々な学びの形があり、生徒数も年々増えている中においても、引き続き生徒 個々に応じたきめ細やかな教育活動がなされるよう、適切な教職員と教室の確保を お願いしたい。

	学校自己評価(令和 4 年 6 月 18 日実施)			学校関係者評価	
重点項目·目標	評価項目	項目別	価 総合	結果・課題及び改善策	(令和4年7月2日実施) 評価(結果・分析)及び意見等
教育理念	理念の浸透	項日別 A	— 松石 — A	学期開始時のオリエンテーションでは、通学生全員で本校の目指す学習者像「Learner Profile」についての確認の時間を設けた。また、学校行事の機会では、「Learner Profile」の実践を意識して生徒は目標を立て、振り返りをするようにし浸透を図っている。	「Learner Profile」として育む力が明確に示され、各活動がその理念を基に展開されている。行事後、振返りを行うことで生徒自身の資質の成長を育んでいる。創立から10年間、教育理念を実践し、新寮開設という大きな念願の目標を達成し、生徒たちの学校生活の質向上へ大きく飛躍した。新学生寮「レジデンス
	理念の実践	Α		1月には新学生寮「レジデンスホール」をオープン。生徒たちが「一人で学ぶ、みんなで学ぶ」ことができるように、居室には集中して自学自習できるブース型デスクを設置、50畳のリビングでは生徒たちが集まれる空間をつくった。また、スタッフも常駐し、生活を通して学べるようにしている。	ホール」ができたことで、共同生活を通して互いに学び合える環境になっている。 提携校のセントマーチンズ大学への短期留学も再開され、その報告会等を通じて生徒全体の国際性が一層育まれているものと思われる。また、2023年は英語劇発表会の芸術監督の先生方の来日など、本来の国際交流が活発になって
	国際性の涵養	Α		国際的志向については、コロナ禍で休止していた夏期体験留字を、米国・リンントン州の提携校・セントマーチンズ大学で再開し、生徒にとって異文化体験の大きな機会となった。帰国後は、体験の言語化で国際志向を高めることを目的に、留学体験のプレゼンテーションを実施。今年も大使館インタビューの機会を得て、在京都フランス総領事館表敬訪問やオンラインインタビューを行った。 保護者有志による「Familyの会」は、コロナ対策をしながらガーデニングを定期的に	いくことに期待している。 国際バカロレア校同士の交流や、IBワークショップやネットワークミーティングへの積極的な参加など、よりよい教育を目指した取組みは評価できる。保護者有志の会「Familyの会」は、Classiの普及により様々なコースや遠方の保護者な」と、、以前と比べて多岐に亘る保護者に活動を周知されるようになり、より多くの
	学校コミュニティーの発展	Α		中族」 促進者の大々の六流の担した。よ、地域しの六流においては、国際バカロ	人が「自分たちの学校」という意識を強く持つようになったと感謝している。食べられるハーブや野菜を植えるエディブルガーデンの活動など、生徒には育てる楽しみを感じる機会、保護者同士では一層の交流の機会としていきたい。同窓会「ホームカミング」が盛会となることを祈念している。
教育活動	カリキュラムの充実	Α	A	は週1日に加えて週3日コースを開講し、通常授業にオンラインで参加するハイブリッド型クラスも開始した。 課外活動については、感染対策をしながら、夏期体験留学、英語劇発表会など全ての学校行事を実施できるように工夫した。また、進路活動の一環として、通学生を対象に大学教授による模擬授業「環境問題のルーツ」(関西大学経済学部教授新能隆嘉先生)による講義を実施し、生徒たちにとっては大変知的刺激となる機会となった。 学期開始時に、適切な目標設定のためのワークシートを配布。必要に応じて個別面談を実施し、生徒が自身の課題発見と解決ができるとうに指導した	   知識の詰め込みではなく、思考を深める教育活動が積極的に行われている。  オンラインコースも増設され、様々な形で学びを深める場を提供していく姿勢に
	課外活動の充実	Α			好感が持てる。 課外活動については、所属コースに拘らず参加の機会が増えるよう引き続き 希望する。オンラインの普及に伴い、ハイブリッド型クラスの実施、遠方の保護 者との面談、登校しづらい生徒とのコミュニケーションが充実されたことは大き な成果であり、通信制高校ならではの特徴が強化された。 少人数クラス編成で、生徒個々に応じて適切な目標設定を行い、それに対す るサポートに丁寧に取り組んでいると感じる。生徒全体の学力のより客観的把 握を目的とした定期的な試験の実施、オンラインを活用したハイブリッド型クラ スの開始など、進路指導においてきめの細かい取組みがなされている。 学期末面談のオンライン実施など、保護者との連携もよくなされている。親元 を離れている生徒の保護者にとっては安心感につながる。
	個別サポートの充実	Α			
	カウンセリングの充実	Α			
	進路指導の充実	Α			
	保護者との連携	Α			
	適切な教育課程の編成	Α	A	日	を基にした新空コロナウイル人への対策や災害を思定しての避難訓練などを実施し、安全で安心できる学校としてできる限りの対応がなされている。ホームページやSNS、紙面での活動報告を通して、学校の様子がよくわかる。随時更新されており、興味や関心を持つことができる情報発信となっている。IBDPコースの充実だけでなく、様々な事情のある生徒へのきめ細やかな配慮のできる通信制高校としての魅力もあわせて発信していってほしい。以前は和太鼓部の地域イベント等参加により、高校を知らせる機会となっていたが、パフォーマンスの機会が減ると、生徒の成長の機会が少なくなるのではと危惧している。活動の活性化に結びつくような機会が持てるよう、検討していただきたい。新学生寮が校舎に隣接した場所に新設されたが、生徒にとって今まで以上の自主的な運営を、教職員にとって過度な負担とならないよう適切な人員の確保をお願いしたい。コロナ禍での制限された学校活動から少しずつ解放され、生徒も本来の活動が出来てきている反面、その影響が少しずつ出てくる可能性がある。その心理的な影響を汲んだメンタル面でのサポートが、必要とされている気がする。教職
	適切な面接指導・添削指導等	Α			
	適切な教職員の配置と組織運営	Α		スを維持して教育の質を高めるように努めた。	
学校としての体 制の確立	危機管理について	Α		火吉吋の避無場所の唯認を行い、生使へ非吊时における危機管理思識を喚起した。	
	学校評価の実施	Α		校生、保護者へはClassiを活用し、より円滑に情報を提供するよう努力した。	
	適切な情報提供と意見等の取り入れ	Α		地元との連携については、新型コロナウイルス感染拡大防止のためその活動範囲が限られたが、約3万個のキャップを社会福祉協議会に提出したエコキャップ回収活動など、主に環境問題に関する活動を行った。殊に生徒は環境問題に高い関心が	
	地域との連携	Α		あり、SDGsについて学習したクラスでは、生徒主体でエコキャップ以外にもコンタクトケースや古切手回収など様々な活動の幅を広げている。	
	適切な施設及び設備の整備	Α		法令に適合した敷地面積、教室等が確保され、必要な点検等も適切に行った。   	員の多方面での配慮などに感謝している。